

労災だより

2017-Sep

No. 03

当院は「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」
を先進医療として行う施設に平成29年9月より承認されました。

眼科部長 加藤徹朗

平成28年度手術実績

白内障手術 840件、網膜硝子体手術 107件、
斜視手術 34件、レーザー手術 143件、その他手術 8件



多焦点眼内レンズとは～多焦点眼内レンズのメリット～

加齢により水晶体が混濁し、次第に見えにくくなる白内障。その混濁した水晶体を取り除き、代わりに眼内レンズを入れる白内障手術において、2種類の眼内レンズが存在します。

ひとつは、1つの距離に焦点を合わせる**単焦点眼内レンズ**であり、もうひとつは複数の距離に焦点を合わせる**多焦点眼内レンズ**です。単焦点眼内レンズを入れた後は、1つの距離にしか焦点が合いません。合っていない焦点の距離を見るときは、メガネが必要となります。

一方、多焦点眼内レンズは近距離と遠距離など**複数の距離に焦点が合う**ため、単焦点眼内レンズに比べ、**メガネへの依存を減らすことができます**。職業柄、メガネやコンタクトの装用が出来ない方はもちろん、メガネをかける頻度や本数を減らしたい方に適しています。

単焦点眼内レンズの見える方 (遠距離に焦点を合わせた場合)



多焦点眼内レンズの見える方 (遠距離と近距離に焦点を合わせた場合)



多焦点眼内レンズを選ぶポイント

多焦点眼内レンズは日常生活の大半がメガネなしで不自由なくできるレンズです。しかし、多焦点眼内レンズは若い頃のように見たいところに自由に焦点が合うわけではないため、位置により見にくい場合はメガネを必要とすることもあります。白内障手術が必要になった場合、仕事のことや趣味のこと、一日の生活において「どこ」を見ることが一番多いかなど患者さんの希望によって眼内レンズの選択をします。

なお、平成 29 年 4 月より、白内障手術装置を最新の機器に更新しました。これにより、患者さんにかかる負担の軽減や安全性の確保についても確保しております。



横浜労災病院**がん**サーボード聴講のご案内

平成 28 年 10 月より当院ではがんサーボードを開始し、今年 8 月までの間に計 6 回が開催されました。過去のがんサーボードでは担当診療科の提供するテーマを題材に、関係診療科の専門医やがん診療運営委員会メンバーで症例を包括的に検討を行いながら、当院におけるがん治療についての情報共有を行ってきました。もちろん、看護師や薬剤師、MSW などのスタッフも多数参加しています。

（過去の開催内容は横浜労災病院ホームページから「診療科目」→「がんの患者さんとともに」→「がんサーボード」

<https://www.yokohamah.johas.go.jp/medical/cancer/cancerboard.html> をご覧ください）

当院がんサーボードは現在、2ヶ月に1回、偶数月第一月曜日の 17:30 から開催しております。**次回のがんサーボードは 10 月 2 日（月）の予定**です。

当院がんサーボードは、がん診療に携わる院外の医療従事者の方にもご参加（聴講）いただくことができます。

ご興味のある方は、[同封のファックス用紙（「横浜労災病院がんサーボード参加申し込みおよび個人情報取扱誓約書」）に必要事項をご記入の上、地域医療連携室（045-474-8344）までファックス下さい。](#)（※個人情報取扱誓約書はがんサーボードで患者情報を取り扱う性質上、提出をお願いしております。）

今後のがんサーボード開催情報（日時詳細やテーマなど）を継続して入手されたい方も、当ファックス用紙でご連絡ください。ご指定の連絡先に今後の開催をご案内させていただきます。



横浜労災病院

横浜市港北区小机町 3211 TEL 045-474-8111